

目指せ！ さいたま考古マスター

君に**挑戦**！ これなんだ??

第 3 回

かいせつ

その1 丸いところに三角もよう。これなんだ？

次の二つの中からえらんでね！

1. ぼうし 弥生人はおしゃれだった？
2. うつわ ぐらしにデザイン？



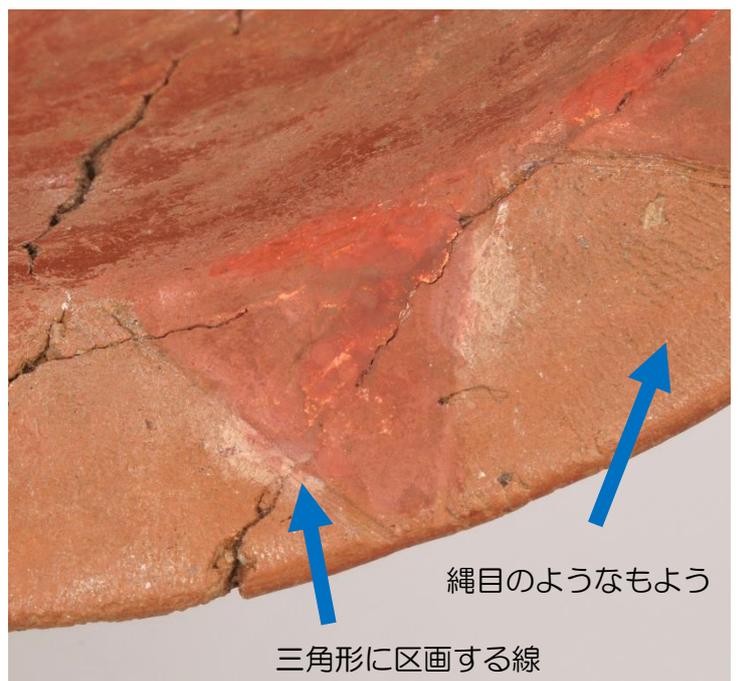
ヒント 弥生時代（やよいじだい）のものです。

答 え 2. うつわ

解 説

これは、「高坏（たかつき）」という名前ではばれるうつわだよ。あし（脚）がついているお椀（わん）のような形が特徴（とくちょう）。弥生時代につくられた土器（どき）には、「かめ」、「つぼ」、「台付（だいつき）かめ」などがあるんだけど、「高坏」もそれらとならぶラインナップなんだ。

「かめ」と「台付かめ」は、主に煮炊きに使われたようで、かざりはあまり付けられないんだけど、「つぼ」と「高坏」は、赤色をぬり、表面をよくみがき、さらに、さまざまなもようやかざりが付けられているんだ。特に「高坏」は、見えるところのほぼ全体が赤くぬられていて、弥生時代の後期ころになるまでは、もようも付けられていたんだよ。問題の「高坏」も大部分が赤くぬられているけど、ふちのところはギザギザの線を引いて、赤くぬったところと



ぬらないところを分けているね。写真ではわかりづらいけど、赤くぬらなかつたところには、草を使って縄（なわ）目のような細かいもようもつけられているんだよ。これは、ふだんの生活で使ううつわではなく、むつかしいことばでいうと「祭祀（さいし）」とよばれる、いのりや祭りなどの時に、おそなえをもりつけるためのうつわだったからなんだ。

弥生時代は、日本で水稻耕作（すいとうこうさく）＝たんぼでの米作りが始まった時代だよ。米作りは中国大陸や朝鮮半島などから人や文化といっしょに伝わったらしいんだね。さいたま市では、岩槻区の岩槻城跡（いわつきじょうあと）から弥生時代前期のくらしのあとが見つかっていて、その後、同じ岩槻区の南遺跡で弥生時代中期前半のくらしのあとが見つかるのが、弥生時代の始まりなんだけど、およそ2100年前ころの弥生時代中期後半になると、市内のあちこちでムラのあとが見つかるようになるんだよ。

問題の「高坏」が出土したのは、中央区にある諏訪坂遺跡（すわざかいせき）っていう遺跡なんだけど、この遺跡では、弥生時代中期後半の家のあとが二つみつかって、それぞれの家のあとからは、家のなかにしまわれていた土器がそのままの形で出土したんだよ。

次の写真は、この「高坏」といっしょに出土した土器だよ。大きささまざま、形もいろいろあるね！



- 中央区・諏訪坂遺跡（すわざかいせき）出土
- 弥生時代（中期後半）

とっておき
情報

この土器も与野郷土資料館で展示されているんだ！！

その2 藍(あい)色のかがやき。これなんだ？

次の二つの中からえらんでね！

1. 肩(かた)もみき

肩がこった時には、これが一番？

2. ネックレス

首のまわりをかざるのは・・・。



ヒント	ジュエリー やよい
答え	2. ネックレス
解説	<p>ガラスで作った玉を糸でつなげて作ったネックレスだよ。弥生時代のもので、「その1」の「高坏」よりも少しあとの、弥生時代後期のものだよ。</p> <p>写真ではわかりづらいけど、一つひとつの玉には穴があいていて、そこに糸をとおしてネックレスにしているんだ！穴のあいたガラスの小さな玉だから、ビーズっていてもいいね。</p> <p>玉（ビーズ）が43個あるのがわかるかな？よく見ると、大きさも色も少しずつ違うね。それに、まんまる（球状）ではなくて、円筒状（えんとうじょう）のものが多いね。これは、ガラス玉の作り方と関係しているようなんだ。</p> <p>ガラスを加工する技術も弥生時代に伝わったんだけど、ガラス玉を作るには、いろいろな方法があるんだ。鋳型（いがた）を使って丸い玉を作る方法や、管（くだ）を作ってからそれを切って一つひとつの玉を作る方法などがあるんだよ。問題のガラス玉は、管を作ってから玉を作る方法で作られたようなんだよ。金属の細い棒（ぼう）のまわりに溶けたガラスを付けて引き延ばし、それから棒を抜くとガラスの管ができるね。それを小分けに切って、さらに熱を加えて形を整えると、問題のガラス玉ができるんだよ。</p> <p>ところで、このガラス玉のネックレスは、中央区にある上太寺遺跡（じょうだいじいせき）で昭和56年（1981）に行われた発掘調査で出土したんだよ。上太寺遺跡っていうのは、大戸小学校のすぐ南側にある遺跡で、弥生時代のお墓が見つかったことでよく知られているんだ。このお墓はまわりを溝で四角くかこんでいて、四角く（「方形（ほうけい）」）まわり（「周（しゅう）」）をみぞ（「溝（こう）」）でかこんでいるので、「方形周溝墓（ほうけいしゅうこうぼ）」ってよばれているんだ。「方形周溝墓」は、弥生時代から古墳時代の初めの時期に特徴的なお墓の形なんだよ。</p>

昭和 56 年の発掘調査では、「方形周溝墓」が三つ見つかったんだけど、そのうちの「第 2 号方形周溝墓」と名付けられたものから、このガラス玉のネックレスが出土したんだ。でも、ほかの二つの「方形周溝墓」からはガラス玉は出土しなかったんだよ。みんながネックレスをしていたわけではないのかもしれないね。

この上太寺遺跡の北側、大戸小学校とその北には、中里前原遺跡（なかざとまえはらいせき）と中里前原北遺跡（なかざとまえはらきたいせき）が南北にならんでいるんだけど、この二つの遺跡では、まわりを濠（ごう、ほり）で囲んだ弥生時代後期のムラが二つと、「方形周溝墓」群も見ついているんだよ。まわりを堀でかこんだムラのことを「環濠集落」（かんごうしゅうらく）っていうんだ。中里前原遺跡は、弥生時代後期の「環濠集落」として有名な遺跡なんだよ。このガラス玉のネックレスをしていた人も、中里前原遺跡でくらしただった可能性が考えられるよ。

- 中央区・上太寺遺跡
（じょうだいじいせき）出土
- 弥生時代後期



中里前原北・中里前原・上大寺遺跡全体図(弥生時代)

上の図は、上太寺遺跡・中里前原遺跡・中里前原北遺跡でみつかった弥生時代のくらしのあとの模式図だよ（赤い丸のところが、問題のネックレスが出土した「方形周溝墓」）。

※さいたま市立博物館 第 22 回企画展図録『弥生時代のさいたま』掲載図に加筆

とっておき
情報

この土器も与野郷土資料館で展示されているんだ！！